

# 運 動 方 針(案)

## 前 文

昨年３月末に第１ステージを終えた市町村合併後、初の統一地方選挙が４月に行われ、県議会では新たに９５名の議員が選ばれた。

今回わが党は、１１名が勇退という世代の交代期に加え、市町村合併による選挙区の見直し、定数の削減など厳しい状況下での戦いであり、新旧の大幅な入れ替えがあった。

わが党は、党員・党友が一丸となって党勢拡大に全力を挙げ、積極果敢な活動を展開し、結果、県議会議員定数９５議席のうち５６議席を獲得、安定多数を確保するにいたった。一方、県議選と同時に行われた千葉市議会議員選挙、後半の市町村長、議会議員選挙では、わが党の公認・推薦を含め多数の保守系議員が誕生した。

しかしながら、この結果は、県民がわが党の実績を評価し、また、わが党に対する信頼、期待の現れであるとは言い難いものがある。

われわれはこのことに鑑み、本年は次に掲げる点を重点課題とし、責任政党として、地域住民と密着し、民主政治の基盤をなしている地方自治の健全な発展を目指し、地域の潜在力を活用した生きがいと活力ある千葉県の実現に向け、邁進するものである。

## 党員獲得運動を促進しよう

わが党にとって、党勢の拡大を図り、安定した支持基盤を築くためには、より多くの党員の獲得は至上命題である。

昨年、①議員支部の「５０人党員の継続の義務づけ」、②支部構成要因である「党員５０名以上」の徹底、③職域党員の増強・定着の３点を課題とし、県下６万人党員の獲得を目指したが、結果、新規党員２，４９３名、継続党員１７，８６１名、一昨年の党員数の８８％、２０，３５４名であった。

この原因は、県民の政党離れ、市町村合併による支部の解散等も理由のひとつであるとはいえ、600万県民を数える千葉県においては、誠に遺憾である。

そこで、本年は、次の4点を課題として、党員獲得運動を展開するものである。

- ①衆・参議員候補者選定基準である党員確保努力目標の達成
- ②地方議員支部の「50人党員の継続の義務づけ」
- ③支部構成要因である「党員50名以上」の徹底
- ④職域党員の増強・定着

## **青年局・青年部、女性局、学生部の活性化を図ろう**

党の組織の第一線で活躍するのは青年・女性党員であり、その役割は極めて重要である。

青年局・青年部にあっては、新たな発想と強固な決意をもって、活力ある組織の確立を目指し、青年組織の各種街頭活動の強化と組織的広報活動の展開、さらには各種青年団体との交流を図り、若者の政治への参加を求める。

また、現在、女性の英知と能力があらゆる分野に発揮され、女性が果たす役割と責任がますます重要になってきている。

女性局は、党内外の女性組織と連携を図り、党女性誌「りぶる」の購読拡販、女性局の政策テーマを中心とした各種研修会の実施、地域ボランティア活動を通して、女性党員の意識高揚と組織拡大・強化を図るものである。

一方、一昨年設置した学生部の確立・充実のため、広く機会を提供し、学生の政治に対する意識と関心を高めるとともに、若者の意見が政策に反映されるよう努めるものである。

## **戦略的な広報活動を展開しよう**

選挙はもちろんのこと日常の政治活動においても、広報の果たす役割はますます重要性を増してきている。党の政策や姿勢を国民・県民に分かりやすくアピー

ルするためには、広報戦略に基づいた広報物制作はもとより、情報の発信をこれまで以上に幅広く展開する必要がある。

よって、以下の目標を掲げ、党本部と都道府県支部連合会、支部が広報戦略に基づいた活動を一体的に展開するものである。

- ① 社会情勢や世論を的確にとらえた戦略的な情報発信
- ② 党本部と都道府県支部連合会、支部間のスピーディーな情報の共有化
- ③ 機関紙誌を活用した日常活動の活性化と党勢拡大
- ④ 情報量の豊富な魅力あるホームページの制作と積極的な活用

## **参議院選挙の必勝を期し、積極果敢な戦いに挑もう**

われわれは、7月に施行される第21回参議院議員通常選挙の必勝のために、党の命運をかけて総力を結集し、国民・県民に対し、責任を負う安定した政治基盤を構築する決意である。

わが党は、3年前の同選挙で比例代表15、選挙区34の計49議席を獲得したが、過半数の議席に達していない状況にある。

従って、来月迎える参議院選挙は、わが党にとって現有議席を確保するだけでなく、いかに過半数を超える議員を確保できるかが最も大きな課題であり、また、「美しい国、日本」の実現を目指すわが党の信を問う重要な戦いである。

このような認識に立って、わが千葉県選挙区において石井準一、白須賀貴樹両候補の必勝を期し、党員・党友や各種友好団体などの支持を着実に固め、県民の広範な支持を得るよう、県民一人ひとりにまできめ細かく訴える積極果敢な戦いを挑んでいくものである。

## **真の県民本位の千葉県を築き、分権時代・地方の時代をリードしよう**

「平成の大合併」も第二次の取り組みが進行している。36市17町3村の5

6市町村も、今後さらに合併が進むものとみられ、こうした県内の大きな枠組みの変化は、地方分権・地方の時代の到来が、地方自治のあり方とそれにかかわる全ての者に、真の自主性と責任を求めるものとなっている。

社会経済情勢の変化とともにこうした市町村の大変貌の一方で、県としての方向性はますます混迷を深めている。これまでも指摘してきた堂本県政の誕生とその県営運営である。めまぐるしく次々と出されてきた方針や計画等は、関係する各方面の声や意向を顧みない猫の目発想かつ場当たりの発想であり、どれをみても一貫したビジョンや施策の関連性もなく、県内の混乱はもはや限界といえる。地方の時代として、真の自主性の発揮による自治体間競争の時代になる、まさにその入口ともいえる重要なこの時期に、こうした県政運営がさらに続けば、新時代に向けての本県の飛躍は到底望めない。

平成19年度の県予算は、一般会計で、対18年度予算と実質規模比較で1.3%増の1兆4,452億9,900万円の規模となった。しかし、当初予算段階でなお168億円の財源不足を抱えており、依然として厳しい財政運営が続いている。こうした状況で、わが党は予算編成に際し、緊急性かつ重要度の厳しい精査を行い、1.水道総合対策補助、2.私立学校経常費補助、3.耐震化の推進と防災対策の充実、4.医療体制の充実と医師の確保、5.子育て支援の充実、6.有害鳥獣対策の強化、7.中小企業振興策の充実、8.観光の振興、9.土地改良事業及び「農地・水・環境保全向上対策」の推進等による農業県ちばの確立、10.国道・県道の整備促進と維持補修の充実、11.いじめ対策、12.警察官等の増員の12項目を最重点として絞り込み要望し、折衝の結果、全て予算措置がなされた。どれも切実な県民の声であり、県民ニーズにそった県政の方向性の確立をめざしたものである。

わが党は、堂本県政の一期目4年間は是々非々の姿勢で対応してきたが、二期目の選挙では明確に「反堂本」の姿勢で選挙戦に臨んだ。県政もこの4月の統一地方選挙で、県議会は第16期目の体制となった。新体制のわが党県連は、県政に臨むにあたり、堂本知事に対する政治的姿勢は反知事である。しかし一方で「県民与党」の立場から、議会对応を中心とする県政に対しては是々非々の姿勢であらゆる局面に対応することを、改めてここに宣言する。

議会对応も、二元代表制のなかで、独任制の知事に対して合議体である議会に

求められる「監視機能」の一層の強化を図り、チェック・アンド・バランスの実効性向上のため研鑽を積んでいく。同時に、議会改革も、わが党が率先して実効を上げていかなければならない。

時代に即した県政運営に変革していくためには、時代を見据える確かな眼と県民ニーズの的確な把握が最も求められており、県民ニーズにそった県政運営でなければならない。知事のいう県民参加は一握りの「特定の県民」であり、仮であっても、特定思想や一部住民の意向を反映したものであってはならない。

知事に対しては野党宣言をしても、県政における一貫した責任政党であり「県民与党」であるわが党は、今後とも、その使命を十分に認識し、きめ細かな県民対話による地域の要望・ニーズの把握に努め、そのうえで、将来を見越した的確な政治の指導力を発揮し、時代を見据えた政策の立案・実行に努め、地方の時代・分権時代にふさわしいバランスがとれ真に全国をリードする先進県千葉づくりのため県民とともに邁進する。